

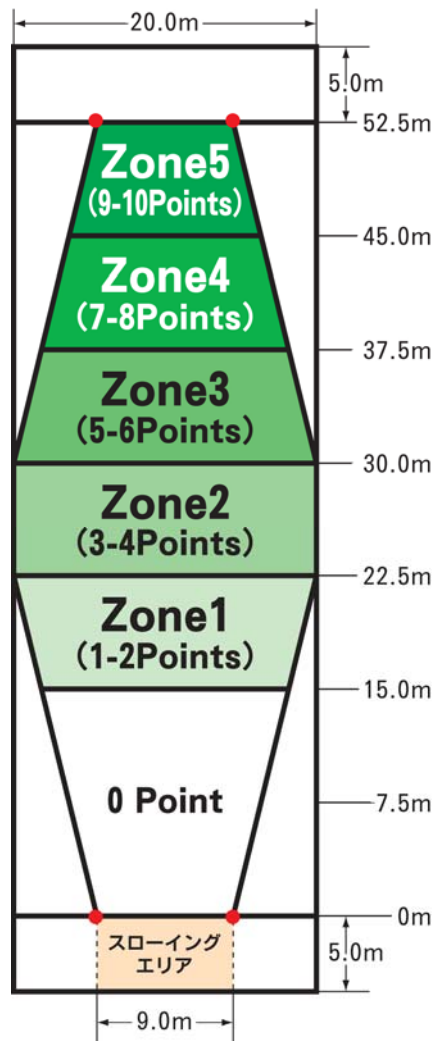


**JAPAN FRISBEE DOG
ASSOCIATION**

since
1994

公式小型選手権

日本フリスビードッグ協会 競技規定



- JFA 会員とその登録犬に加え、一般参加も可。ただし、公式ポイント(ジャパンファイナルノミネート対象ポイント)はJFA会員とその登録犬のみに与え、JFA会員以外は、公式ポイントランキング集計対象にならない。
- 体高 40cm 以下の小型犬のみを対象とする。
- 選手は、受付時に配布される「競技用frisビー」で競技を行なう。ただし、小型犬や子犬に関しては、JFA公認「ドッグディスクMサイズ」を使用することもできる。
- 競技時間 60 秒。予選 2 ラウンド、決勝 1 ラウンド(7チーム)にて行う。
- 決勝ラウンドは予選2ラウンドの合計獲得得点上位 5 チームにより行われるが、決勝進出最下位ポイント(いわゆる決勝ボーダーライン)重複の場合は全てのチームが決勝進出とします。
- 決勝ラウンドへは「同一オーナー・同一犬」による決勝進出は出来ない。但し、予選トップ通過以外であれば、どちらのチームを決勝進出させるかを選択できる。このとき決勝進出辞退チームのファイナルポイントは、予選順位でのファイナルポイント表に従い確定し、順位は繰り下がりとなります。
- コートにおける指定競技練習時間では、使用する練習ディスクは 7 枚までとし、1 人 2 セット(14 投)までとする。
- コート内に入れるのは、選手と競技犬のみとする。
- リードをつけたまま競技を行う事は出来ない。
-

● ポイントエリア (公式戦コート使用)

スタート～ 15m未満	0 ポイント
15.0m～22.5m未満	1／2 ポイント
22.5m～30.0m未満	3／4 ポイント
30.0m～37.5m 未満	5／6 ポイント
37.5m～45.0m 未満	7／8 ポイント
45.0m～52.5m未満	9／10 ポイント
52.5mm以上	0ポイント(場外)

奇数得点は通常(ランニング)キャッチでの得点を表すが、ジャンピングキャッチを行った場合は、それぞれのエリア毎に1得点が加算され偶数得点とする。すなわち3得点エリアでのジャンピングキャッチは4得点。最長エリアでのジャンピングポイントは 10 得点となる。

競技の進め方

- 入退場の際、特別な指示がない限り、コートへの入場は本部設置側入口から入り、競技終了後の退場は反対側(ラインズマンがいる方向)から出る、一方通行とする。
- 入退場の際、選手又は犬が故意にフェンス又はフラッグをまたいで서는ならない。
- 競技には、使用frisビー(交換用含む)以外、犬を呼び寄せるモノ(フード類・玩具類など)を持ち込んで서는ならない。(犬笛は指笛・口笛とみなし可)
- 競技中のディスク交換は、予備ディスクがあらかじめスローイングエリア内の指定場所に入れてある場合に限り、破損したディスクと入れ替えに交換することができる。
- 交換用の「競技用frisビー」が必要な場合は、有償で購入する。
- 競技使用の「frisビーの表面」へ、マジックインク等でのマーキング(サイン)等は禁止する。
- 選手と犬は、スタートの際はスタートラインの後方で、且つ 9mコーン間の『スローイングエリア』内に入らなければならない。選手は、全てこのエリアからスローイングを行わなければならない。

- スローイング方向は第1ラウンドと第2ラウンドは逆方向から行う。尚、第1ラウンドのスローイング方向並びに決勝ラウンドのスローイング方向はコイントスにより確定される。コイントスは原則的に大会当日の公式戦エントリーナンバー1番のチームが行う。例外として、第1ラウンド・決勝ラウンドに限り太陽光が直視に当たる場合はコイントスで決定した方向とは限らず、インフィールドに向かって太陽光を背にした方向から行う。第2ラウンドは第1ラウンドと逆方向から行う。
- 競技の開始は、MCの合図で行われる。MCが準備完了と判断した後は、選手の間合いでの開始とはならない。プレイヤーは、入退場・スタート準備は迅速に行うものとする。
- スタートの際、レディーゴーの合図より先に犬が出てしまうと、ドッグファールとなり、そのスローは無効となる。
- 第1投目のみ、スタートライン9mコーン間より犬が出て行かなければ、ドッグファールとなり、そのスローは無効となる。その際、一旦スローイングエリア内に犬を呼び戻してからの再スローは有効だが、呼び戻すことなくスローした場合は、15m以上投げなければ、以後のスローが有効とならない。なお、ポイント有効となった以後のスローは、9mコーン間外から出てもかまわない。
- 犬があきらかに15mラインを超える前にfrisbeeを投げなければドッグファールとみなされ得点対象とはならない。
- 2投目以降、ポイントの有無にかかわらず、犬がスタートライン上9mコーン間を越えてスローイングエリア内に戻らなければ、次投のスローイングは無効となる。
- 9mコーン間外よりスローイングエリア内へ戻った場合は、どの位置からでもかまわないので一度インフィールドへ犬を誘導(犬の4本足全てがインフィールドへ入るように)し、再び9mコーン間よりスローイングエリア内へ戻し直してから次投を行う。但し、例外として場外に出たfrisbeeを犬が持ち帰るなど、入退場口を通る、もしくはスローイングエリア後方(エンド)よりスローイングエリアに戻った場合のみ、9mコーン間への戻し直しの必要なく、そのまま次投有効とする。
- タイムアウト後(最終キャッチ後)、犬は速やかにスタートラインまで戻らなければならないが、この際ポイント獲得エリア内に入るまでに、スタートライン方向以外への明らかな進行行為があった場合、最終キャッチは無効となる。(場外へ出た場合は、その時点で無効となる)
- タイム終了合図の前に手から離れたfrisbeeは有効である。タイム終了とは、タイマーブザー音の鳴り始めであり、鳴り始めの判断はジャッジが判断する。

採点基準とポイントの確定

- ライン上、ライン際でのキャッチや、着地と同時のキャッチ等、疑わしいキャッチ状態は、全てスタートラインに近いエリア得点となる。
- ディスタンス競技におけるキャッチとは、ある程度のfrisbeeディスク保持の時間をもってキャッチとみなす。
- キャッチ後、地面につけて啜え直し等、ある程度の保持なく地面に付いた際、口からfrisbeeが離れた場合はキャッチとみなされない。
- あきらかにジャンプをしていて空中にてキャッチを行ったと認められた場合のみジャンピングキャッチとみなす。(高さだけが判断基準ではなく、幅なども含む)
- 小型犬(コーギーなど)や大型犬(シェパードなど)のジャンプに対して、犬の体形などから危険防止の為、判断基準が異なる場合もある。
- 犬がスタートライン方向に完全に対面し戻りながらジャンプを行ってキャッチをした場合は、戻りジャンプとし採点はランニングキャッチ扱いとなる。
- 原則的に犬がfrisbeeを啜えその4本足がスタートライン上9mコーン間を越えて、スローイングエリア内に入った段階でポイント確定とする。
手前でfrisbeeを犬が落とした場合(注1)に、スローイングエリア内に投げ手の手が触れることなく入り、尚且つ犬もスローイングエリアに4本足が全て戻ってきた段階(注2)でポイント確定となる。

注1) frisbeeがスローイングエリア内に転がって入る、ライン上又は手前で犬が停止しfrisbeeのみをスローイングエリア内に落とす、など。

注2) frisbeeがスローイングエリア内に戻っている場合でも、スローイングエリア内に犬の4本足が全て入り戻る前に、投げ手がfrisbeeに触れるとファールとなり、そのスローは無効となる。

ファウル

- 競技中に於いてスローイングの際にスタートラインに触れたり又は踏んだ場合、もしくはスタートラインよりはみ出した場合、『フットフォルト』となり、そのスローイングは無効となります。スローイングエリア外からのスローイングも無効となります。
- ポイント確定前に、frisbeeに故意に触ると(手・足など問わず)『ハンドリング』となり、そのスローは無効となります。
- ポイント確定前に、リード(リード使用時)に触ると『ハンドリング』となり、そのスローは無効となります。
- スタートの際、レディーゴーの合図より先に犬が出てしまうと、『ドッグファール』となり、そのスローは無効となる。
- 第1投目のみ、スタートライン9mコーン間より犬が出て行かなければ、『ドッグファール』となり、そのスローは無効となる。その際、一旦スローイングエリア内に犬を呼び戻してから再スローは有効だが、呼び戻すことなくスローした場合は、15m以上投げなければ、以後のスローが有効とならない。なお、ポイント有効となった以後のスローは、9mコーン間外から出てもかまわない。
- 犬があきらかに15mラインを超える前にfrisbeeを投げなければ『ドッグファール』とみなされ得点対象とはならない。
- 全てのスローイングの前に、犬の四本足が完全に9mコーン間のスタートラインを越えてスローイングラインに戻らないと、次のスローイングが無効となります。
※ 犬の四本足が、完全にスタートライン内に戻らない状態でスローイングした場合、前投は『ハンドリング』、次投は『ドッグファール』となり、両方のスローが無効となります。
- 競技中にfrisbeeを追う目的以外にジャッジの10カウント以上フィールド外に出た場合(場外脱走)は、『タイムアウト』となりその時点で競技終了(失格)となる。ただし、それまでに確定したポイントは有効とする。
- 同ラウンドで2回目の場外脱走があった場合は、その時点で競技終了(失格)となる。ただし、それまでに確定したポイントは有効とする。
- 競技中に糞尿行為があった場合は、その段階で失格となるが、それまでに獲得したポイントは有効となる。
- 糞尿行為とは、出た・出ないではなく、行為に入った段階とする。

悪天候時の特別措置

- 2ラウンド終了時点で合計ポイントが0ポイントチーム以外で決勝進出枠を決定する。(決勝進出チーム数に満たない場合もある)
0ポイントチームは、0.5ポイントのみの獲得となる。

ジャパンファイナルノミネート基準

「ジャパンファイナル 2008」出場資格

- ジャパンファイナル開催時に於いてJFA会員であること。
- JFA本部がジャパンファイナルノミネート者とし相応しいと認めた会員。

スモールドッグチャンピオンシップノミネート基準

第1ノミネート

- 年間獲得『公式小型ポイント』上位25組を対象とする。
- グランドチャンピオンシップにも同一犬でノミネートを受けるチームはどちらかに出場するか選択を行わなければならない。
- 5大会以上の参加でジャパンファイナルノミネート対象の基準と致します。
- ジャパンファイナルへのノミネート対象は第2ノミネートからのノミネートチームも含め1オーナー2頭までとする。

ここで、第1ノミネート25組が決定する。(25数組になる場合もある)

第2ノミネート

- 5大会以上の参加でジャパンファイナル第2ノミネート対象の基準と致します。
- 第2ノミネート枠は、同一犬同一オーナーは入れません。入った場合は1チームに選択していただきます。
- 第1ノミネートに入らなかったチームよりポイントランキングに従い、ファイナルポイント上位5大会を合計したポイント上位8チームを選出する。
- 7チーム目に同ポイントが並んだ場合は、ファイナルポイント上位5大会のポイント内容の高いチームを選出し7チームとする。ファイナルポイント上位5大会のポイント内容が同じ場合は、公式ポイント合計の高いチームを選出する。

以上の結果、レディースチャンピオンシップのノミネートが決定する。

公式シリーズ選手権 ポイント早見表			
順位	参加チーム数		
	5～9	10～14	15 以上
1	5	10	10
2	3	7	7
3	2	5	5
4	1	2	4
5	1	2	3
6	0.5	1	2
7	0.5	1	2
8	0.5	1	1
9	0.5	1	1
10		1	1
11		0.5	1
12		0.5	1
13		0.5	1
14		0.5	1
15			1
16～			0.5

※ 公式小型選手権成立最低チーム数は5チーム以上。
 5～14チームの場合は決勝ラウンドを3チームにて行う。
 (5～9チームで3チーム決勝の場合、表彰は1位トロフィーと賞状、2位・3位は賞状のみ)